



梓川の世帯数・人口

世帯数	4,750戸
人口	12,457人
男	6,153人
女	6,304人

(令和4年3.1現在)



梓川アカデミア館探訪

信州梓川賞典

絵画の公募展第21回信州梓川賞展が2月5日(土)から3月6日(日)まで開催されました。公募は一般の部に県内外から86点、小中学生の部に県内10校から467点の応募がありました。

一般の部梓川賞(最高賞)に「春待ちあずさ」吉江秀康さん(安曇野市)他、金賞1点、銀賞2点、銅賞5点、特別賞1点が選ばれました。小中学生の部最優秀賞に「大



▲梓川賞作品「春待ちあずさ」版画(メディウムはがし刷り)

なへちま」手塚陽都さん(岡田小学校4年生)他、優秀賞4点、入賞22点が選ばれました。梓川賞(最高賞)を受賞された吉江秀康さんは「天皇陛下御即位記念の500円硬貨にも使用されている『あずさ』の木と寒い岩肌、背景には北アルプスと冬の空。そこに春を待つリングゴを持った少女・雪の精霊を『春待ちあずさ』と名付けました。このなぞ解きのような版画作品を梓川賞に選んでいただいたことがとてもうれしい。」と語りました。審査員からは「暗い画面の中で人物がシンボリックでインパクトがある。厳しい寒さの信州で春を待つような表現が画面に凝縮されていて、作者の想いが伝わってきます。また、メディウムはがし刷りの技法が効果的に使われており、作品に良く生かされている」と評価しました。

版画作品の梓川賞受賞は今回が初めてとなりました。



▲梓川賞「春待ちあずさ」と作者の吉江秀康さん

梓川剣道教室

梓川剣道教室は、昭和30年の設立以来、60余年にわたる青少年の育成指導や剣道の普及などが評価され、昨年度に全日本剣道連盟の「少年剣道教育奨励賞」を受賞しました。

梓川剣道教室に通う子どもたちの手ぬぐいには、「百錬自得」と書かれています。「百錬自得は、梓川剣道教室の理念で、数をかさねれば自然と身に付くという意味。苦しい稽古に耐えることで



梓川消防署と消防団の協力

昨年8月の大雨で、八景山地区では全5分団が土のうを約300袋作って対応しました。近年は大雨や台風豪雨が多いので、家などへの浸水を防ぐための土のう作りと土のう積の大事な訓練が、梓川消防署と全5分団とで行われました。基本として、砂はスコップに3、4杯に。欲張って入れない。重くなると運搬が大変。土のう積は、土のうの縛った側を守る方に向けて置き、レンガ積みのように2段目からは合わさった上に交互に置く訓練



▲土のう作りと土のう積の訓練をする消防団員

自分に対しても強くなり、我慢強さを養うという思いが込められている。」と梓川剣道教室の指導者で代表の牛田隆男さん(岩岡)と奥さまの睦子さんは話してくれました。

牛田さんは、昭和58年に松本で暮らし始めて以来、約40年にわたり剣道を通じて梓川の子どもたちを強く育ててきました。現在、梓川剣道教室には、小学生、中学生を合わせて40人が通っており、教室を卒業した高校生や大学生も、後輩たちの指導のために訪れてくれるといいます。

少子化により人口は減少傾向にある中、剣道はその波にのまねずに、もつと生徒を増やし、後継者の育成をおこなっていきたくと将来への希望を話されました。



▲牛田隆男さんと睦子さん

コロナ禍の / 子どもたちを 元気 づける

角影台地区三九郎

昨年は、コロナ蔓延禍で中止せざるをえなかった三九郎でした。学校生活や遊びもままならなかった子どもたちを、地区役員や育成会、子ども会、保護者の方々が、少しでも元気づけたい、少しでも先を明るく見て無病息災で過ごして

いってほしいとの願いから、実施しました。9日(日)10時、公園に集まり、地区内を元気に一軒一軒、松飾りやだるまを集めて回りました。その後、大人の手も借りて三九郎を組み立てました。他の地区のよ



▶子どもたちの思いのこもった三九郎

うな巨大なものではありませんでしたが、子どもたちの思いがこもった三九郎ができました。午後1時に役員が火を入れました。無病息災の思いがこもったかのように炎が立ち上がりました。炭火になった頃合いを見て繭玉をかざし、「無病息災」を願い満腹になった子どもたちもいました。子どもも大人も笑顔になれたひとときでした。目覚ましい技術革新により便利になった昨今ですが、このよ

蕎麦打ち体験

コロナウイルス影響による小規模で行う

上角公民館では毎年冬季、初心者も町内の名人に教わりながら蕎麦を打ち、例年40人程の参加者を得て、宴を開きながら打ちたての蕎麦を食する、という蕎麦会を盛大に開催してまいりました。

しかしながら、一昨年より続くコロナウイルスの影響を考慮すると、この様に多くの方が一堂に会する行事がはばかれる状況となつてしまいました。

町内では蕎麦打ちに関心の

変わりゆく

梓川の風景



▶平成8年に県道に設置された「梓の木街路灯」は、電柱に共架するLED防犯灯に改良された後、撤去されます。



▶昭和48年まで使われていた築60年の旧梓小学校校舎は、老朽化により解体が始まりました。

有る方も多く、何とか蕎麦打ち体験を継続出来ないかと考え、写真の様な少人数用の蕎麦打ち用具を公民館に準備し、密を避けた状態で少人数での仲間や御家庭でも蕎麦打ちを楽しんで頂ける様、用具を貸し出し、太くても・硬くても・柔らかくても蕎麦を打つ楽しみを手軽に味わってもらえる様にしました。

町内には蕎麦打ちの技に秀でた方が多くいるのでレクチャーを受け、小規模でも蕎麦打ち体験が続けられれば良いと思います。

今後はコロナウイルスが収まり、以前の様に多くの皆様



▶少人数用のそば打ち用具

雑記帳



この号をもって令和3年度の公民館報梓川版が最終号となります。昨年4月に始まった公民館活動の一年も終わります。みなさんお疲れさまでした。年が改まりカレンダーの中では、まだ三か月が過ぎただけですが、「お疲れさまでした。」ということになります。私の大部分を占めている一年は、1月から12月までではなく、4月から3月までなんだなど実感しています。私にこう感じさせているのは、私が会計年度とか学校年度と言われている時間軸の中で生かされてきたからだと考えます。梅の花が咲き、桜が芽吹く3月に卒業し、桜が咲き誇る4月に入学や入社などの新たなスタートを切る。この時の流れが私は好きです。とても情緒的で日本人としてのアイデンティティを感じます。9月入学ということが検討されているようですが、真夏の入学式というのは、どうでしょう。世界との繋がりの重要性や必然性は、理解できないこともありませんが、川端康成がノーベル賞受賞講演で伝えようとした『美しい日本の私』の心は持ち続けていきたいと思っています。